

災害に抗議

年末、四山で天井崩落

犠牲招いた生産第一主義

昨年の十二月二十一日、四山鉱で死亡災害が起きたが、三池労組は同月二十八日会社に要求して保安対策を講じ、「明らかに事前に防止できる災害だった」ことを指摘しつづき、会社の災害責任を追究、同時に「盤圧対策、枠回収方法(手順など)、とくに枠回収については一枠回収の原則を厳守するなど、現場段階での具体的な対策をいそぐこと」などを要求した。

災害は、昨年十二月二十一日四山(小林昭二郎鉱長)の本層西三十五御西四片で起きた。同箇所は坑口から六千七百五十九キロ。有明海面下六百四十一メートルの深いところ。

死亡したのは山崎正男さん(38歳)の死。山崎さんは古い枠の折損脚の仕業工。勤続十五年。大牟田市小川町二十番地、小川開アパー(ト五棟一階)。その日午前十一時、天井が崩落、その下敷きとなって死亡した。助骨々折などの重傷を負い死亡した。

ZD標語はなんのため?

上の写真は、四山鉱坑口側の壁に掲げられていたZD標語。「ひとつー声かけながら、ふたつー二人でタメながら、みつーみんなで知恵を出し、よつー四山で明るい笑顔、いつーいつでも安全作業、むつー無理せずあせらず順序よく、なつーなんでも初心的な作業、やつーやるべき努力をすれば、このつー坑内の整理整頓、とおー父さん無事故で家庭円満」

四山鉱ではこんなZD標語も……

「ひとつー声かけながら、ふたつー二人でタメながら、みつーみんなで知恵を出し、よつー四山で明るい笑顔、いつーいつでも安全作業、むつー無理せずあせらず順序よく、なつーなんでも初心的な作業、やつーやるべき努力をすれば、このつー坑内の整理整頓、とおー父さん無事故で家庭円満」

職場分会の相次ぐ抗議

新しい年を目前にしながら発生した、山崎正男さんの命をのみにて四山鉱の災害は、とりわけ同

監視に審議を 都市計画税 粉砕すべき

大牟田市の黒田市長は、昨年の十二月市議会に、市民無視の大衆増税案——都市計画税の新設を提案しました。

宮原社宅問題は妥結へ

だが、残された基本問題

三池労組は宮原社宅の合理化問題、次の内容の回答をもってひと題をめぐり、本所指導部が対会社交渉を行ってきたあとをひきついで、昨年十一月二十六日要求提出以来交渉を重ねてきた。その結果、昨年十二月九日の最終交渉の席で、重要な課題を後に残しながら

転居休暇は、公休日を合わせて三日に延長する。これに対して会社は、「炭鉱の社宅の今後の在り方は、あくまで歴史的な経過をふまえるから考え」などの発言をくり返し、あくまで、明治以来長く続けてきた労働者への視の姿勢をくずすおそれ、それだけに今後に残された問題こそ大きい。

各単産の賃上げ要求案

十二月から今年一月にかけて各単産の賃上げ要求案が討議されてきた。これまでに提出された主な単産の要求案は次のとおり。【連行】、回答指定は三月三十一日。大会で正式決定。

- 鉄鋼労連 八%、二万三千円。(過年度平均物価上昇分五%、定昇・生活向上分三%)。二月二十五・二十六日の臨時大会で正式決定。
- 全国金属 二万円。最低で二万円以上、七百社平均で約二万円となる。二月の臨時大会で正式決定。三月十七日に統一要求を提出。二月二十九・三十日の臨時大会で正式決定。
- 私鉄総連 二万二千円、一月末の臨時大会で正式決定。なほマスコ共闘は一〇%。
- 国労 一・二・五%、二万三千円。今回初めて三十五歳・十七年勤続の標準労働者の基準内賃金を十九万円とするポイント賃金も設定。二月の中央委で決定。

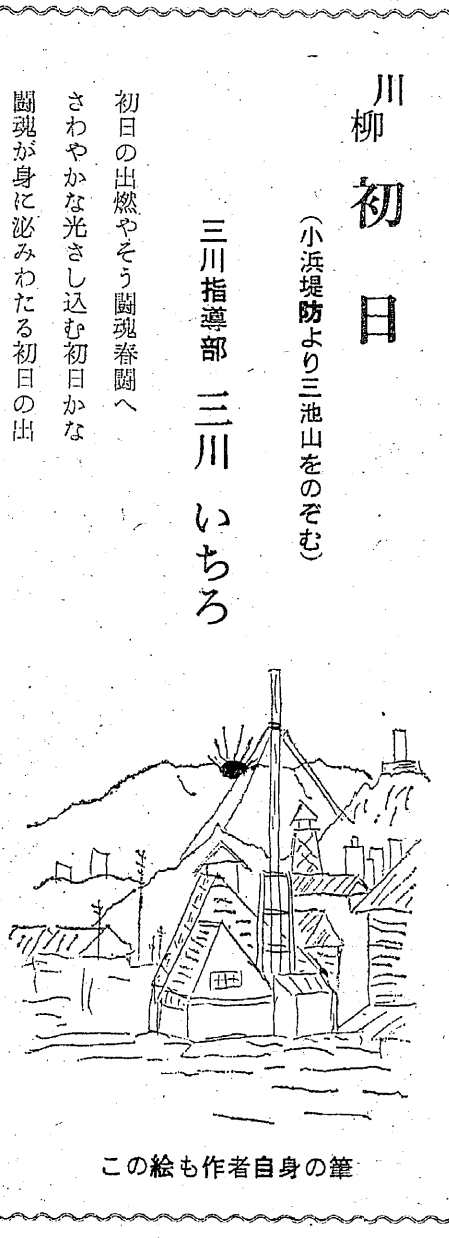
本紙を懸命にささえる

春間近かです。本紙、みいけは、三池の闘いととも、編集担当者、それに、みいけ編集部、の全委員——この話し合いによって新聞「みいけ」は、ただ今五人で、それは次の編集方向が定まり、内容が企の仲間です。(敬称は略させて)

みいけ編集委員会

春間近かです。本紙、みいけは、三池の闘いととも、編集担当者、それに、みいけ編集部、の全委員——この話し合いによって新聞「みいけ」は、ただ今五人で、それは次の編集方向が定まり、内容が企の仲間です。(敬称は略させて)

- 榊島 敬三 三川指導部 所属。34歳。仕上げ員。
- 杉野 栄治 本所指導部 所属。53歳。資料員。
- 木下 章 港務指導部 所属。62歳。機械運搬係。組合員の皆さん、以上が、みいけ編集委員会、を構成するメンバーです。どうか、本紙、みいけへの要望や批判、組合運動への建築、何よりも職場・地域・家庭のなかにひそんでいるあらゆる要求など、右の各編集委員を通じてどしどし本紙に反映し、ご協力くださることを切にお願いします。



この絵も作者自身の筆

川柳 初日

(小浜堤防より三池山をのぞむ)
三川指導部 三川 いちろ

初日の出燃やそう闘魂奮闘へ
さわやかな光さし込む初日かな
闘魂が身に込みわたる初日の出